

## 令和三年度

### 一般選抜入学試験（後期） 小論文

#### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで2ページあります。解答用紙は3枚です。下書き用紙は1枚あります。  
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があつたら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってははいけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章を読み、問いに答えなさい。

人と人とが繋がる方法、誰が考えても、お互いの話を聞いて心を理解しあう、これが繋がるということですね。それ以外ないと思いますね。お互いの話を聞いて、お互いの心を理解したときに「繋がる」わけですね。

だから、どういうふうにも豊かな人間関係を作るか、どういうふうに繋がるかというには、やっぱり、相手の話を聞くということが始まりだと僕は思うんです。実はカウンセリングというのは、いかに、相手の話を聞くかということなんです。

(中略)

僕が一番勉強したのは、文化庁長官だった河合隼雄先生です。河合先生はすごく冗談の好きな、ユーモアのある方だった。カウンセリングって、聞いていると、ほんとうに、どう解決したらいいかわからないような、難しい事例がいっぱい出てくるんです。相談に来た人が、「先生、私、もう望みがありません」と言う。そんな時、河合先生は何と仰ったかというと、「のぞみがないときはひかりがあります」と。通じたかな？ 宮崎は新幹線が遠いけど……。

もちろん、こういう言葉というのは、「私はもう望みがありません」と言った時に、「いや、光がありますよ」と言って通じる相手かどうかを考えて言わなきゃいけない。言葉というのは相手との関係のなかで、有効かどうかが決まるわけであって、河合先生は相手を見て、「のぞみがなくてもひかりがありますよ」と言った。そのときに、相手がやーっとしたら、笑いが出るといのは、もうカウンセリングはいい方向に、解決に向かっているということですね。

河合先生は、「カウンセラーっていいですよ。黙って話を聞いているだけでお金が入るんですから」と、よくこんな冗談を仰ってました。実は逆のことを言っているんですね。

(中略)

人の話を聞くことがいかにわれわれに難しいことなのか。人間って自分中心です。自分中心は大事なことです。だから、自分の生命を維持できるんですね。しかし、それを時には自分中心を反省しながら、相手中心になるという、そのことがすごく大事です。聞くというのは、相手中心でなきや絶対できないです。

よくカウンセラーの仕事のなかで、「先生、聞いているばかりでたいへんですね」って言われるんです。全然、たいへんじゃない。相手が好きで、相手のことに関心を持ってば、一時間聞いても何ら苦痛と思わない。自分の好きな人の話っていくらでも聞きたい。知りたいと思う人の話は全然退屈しない。相手に関心と愛情を持ってばいくらでも話が聞ける。一時間聞いていても、「よかったなあ、今日、いっぱい話してください。いっぱい相手のことがわかった」って言います

よ。

相手に関心の無い人は他人の話聞きません。僕も教師をしていたから分かりますが、教師でも、一方的な人というのは、この生徒はこんな人間だと、この生徒はこんな心だと決めつけているから、子どもの話を聞かないんです。

遅刻をした。遅刻をしませんと言ったのにまた遅刻をした。その時に、「お前、もう二度と遅刻しないと言ったのに、なんで遅刻したんか！ お前、ほんとうにダメなやつだ」と言うんじゃ、教育ではないです。あんなに遅刻しないと云ったにもかかわらず、なぜまた遅刻してしまったのか。その訳は何だろう？ と思つて、「あんなに遅刻しないと云ったのにどうして今日遅刻したんだろうねえ？」  
「って理由を聞いた時に、その子のたとえば、父親が、母親が、子どもの教育に対して無関心であるとか、本人の実行力が弱いとか、本人の抱えている問題が見えてくるわけです。でも、それを聞かないで頭ごなしにやったんじゃ、その子どもの問題が見えてこないです。」

(中略)

すべては聞くことから始まるんです。日本語の「聞く」という言葉は、「気持」の「気」が「来る」という、これが語源だという説があるんですね。

つまり、「聞く」というのは相手の気持がこちらに来たということなんです。話す側からいうと、自分の「気」があつちに行った、自分の気持を全部、一〇〇パーセント受け止めてもらったということなんです。

(伊藤一彦『聴く力 話す力 書く力』より)

問一 本文を二〇〇字以内で要約しなさい。

問二 二重線部について、作者は何が大事だと述べていますか。自分が相手に働きかける事を想定し、三〇〇字以内で述べなさい。

問三 波線部はどういうことだと思えますか。「繋がる」という言葉を用い、自分の体験や具体例をもとに、四〇〇字以内で説明しなさい。